

会派公明党 視察研修報告書②

日程 令和2年2月5日（水）から2月7日（金）

調査地選定理由

沖縄県名護市は、北海道日本ハムファイターズのキャンプ地なっており、名護市市政50周年に合わせて完成した、名護市営球場「愛称タピックススタジアム名護」の施設見学。北広島市に3年後に新球場が完成することから、「新球場整備・経過について」の調査と名護市と北海道日本ハムファイターズとのかかわりについて意見交換。また、名護商工会も訪問して、商工会と日ハムとの交流の状況を調査目的として選定しました。

<行程表>

年 月 日	行 程
令和2年 2月5日 (水)	北広島市9：07分→新千歳空港10：30分ANA169 3便 →那覇空港14：30分→ホテル17：30分着（グリーンリッチホテル沖縄名護）
2月6日 (木)	名護市役所・名護市営球場視察9時→名護商工会13：30分 →ホテル17時（グリーンリッチホテル沖縄名護）
2月7日 (金)	ホテル9時→那覇空港13：35分ANA1694便 →新千歳空港17：10分→北広島駅18時

<視察者>

木村真千子議員 藤田 豊議員

公明党の視察内容 視察報告者 藤田 豊

視察対応者 名護市建設部都市計画課技幹 桃原泰明

沖縄県でプロ野球チームとして、初めてキャンプを行ったのがファイターズでその時から名護市営球場を利用してきたが、球場の老朽化が激しくファイタ

ーズより、球場の改修の要請が出ていた。名護市は歴代の市長が替わる中、財政状況も検討した結果、改修ではなく新たな建て替えを決定し、ファイターズの要望に応える施設内容の球場を完成させました。

施設内容は、総事業費約45, 6億円をかけ、最新鋭の設備の球場に生まれ変わりました。国の補助事業メニューとして、「社会資本整備総合交付金」（補助率50%）を活用して整備しました。

この球場は名護市営球場であることから、設計コンセプトとして「人と自然が調和し、スポーツを親しむ和みのスタジアム」をコンセプトとして3つの目指すべき球場像を設定し、名護市の新たな核となるスポーツ施設として整備を行いました。①21世紀公園内にある施設として景観に溶け込んだシンボリックな「みどりの中の球場」②スポーツによる地域の活性化を目指すと共に、市民から親しまれる「交流する球場」③球場に練習場等を設け、幅広い年代が交流し、刺激を受けて夢を育む「育てる球場」を掲げて整備しました。

この球場がファイターズのキャンプ地であるという市民にとっての誇りと、キャンプ期間中全国から訪れるファイターズファンによって、全国から注目されることがまちの活性化にもつながっていることを感じました。

また、市営球場の維持費の捻出のために新球場完成に合わせて「ネーミングライツ」を募集したところ、年額15, 550, 000円で5年間の契約が決まり、施設の管理運営に役立てていくことになっています。

次に、名護商工会を訪問し金城哲成会長と経済界とファイターズのつながりについて意見交換をしました。金城会長の話では、キャンプ期間には全国からファンが来られ、市内のホテルは満員状態になることや、キャンプ最終日に選手と市民の交流の場が毎年あることなど、ファイターズと共にまちが活性化していることをお聞きしました。

課題として、ホテルは満員になるが市内の商店や飲食店に全国から訪れたファンは、あまり訪れないのが現在の課題との話がありました。今後とも、名護市はファイターズを大事にして、2軍球場のある千葉県鎌ヶ谷市と1軍球場ができる北広島市と交流を深めることを、商工会として考えたいですねとのお話もありました。

今後、北広島市もファイターズつながりで、沖縄県名護市と千葉県鎌ヶ谷市とあらゆる交流の可能性を検討し、交流人口の拡大に向けて政策提案をしていきたいと思います。

